

印旛地区相談員研修会(ヘルスパレーボール)に参加して

副会長 根本 有美子



7月2日(日)栄町安食台小学校にて、印旛地区相談員研修会が開催され、「ヘルスパレーボール」を体験しました。

ヘルスパレーボールとは、昭和53年頃に流山市で発祥し、当時の母親達の運動不足解消のためにルールが考案され、各小学校PTAに広まっていったとのこと。

ボールはラグビーボールを大きくしたような形で、個人の技術を気にしないで気軽に楽しめるスポーツです。返球も2回～5回以内でよく、サーブは相手コートに投げ入れるようにします。

実際に体験してみるとボールの形が独特なので、バレーボールのように受けるとボールが予想できない動き方をしてハプニングを起こしやすく、とんでもない方向に跳んでいってしまったり、ミスを連発したりでしたが、みんなで大笑いしながら楽しむことができました。



令和5年度 社会を明るくする運動・成田市大会

副会長 星野 聡子

7月26日(水)、成田国際文化会館にて「第73回社会を明るくする運動・成田市大会」が開催され、各地域からたくさんの方が来場しました。

今年度は、講師に増田明美氏をお招きして「夢に向かって走り続ける」をテーマとした講演がありました。司会進行は、増田さんの母校である成田高校放送部の生徒2名が務めました。主催者あいさつから始まり、岸田総理大臣からのメッセージが届いていました。

講演では、高校時代に坂を利用したクロスカントリー20回を走り、男子に負けず速かったことやすべての記録をぬりかえてしまい、その強さの秘けつはカラッと揚げたうなぎの骨を食べてエネルギーにしたことと話していました。ドキュメンタリーのインタビューで伝えたことで、すっかり広まったと自慢をして笑いを誘っていました。

学生・選手の頃は、面倒見がいいという理由でマネージャーになってくれと言われた時期やひきこもりがあったことも話されていました。思い出や辛い経験をしたことなど、貴重なお話を聞くことができました。第一印象として、テレビで見るまま明るい方で常に笑いの絶えない講演でした。

増田さんの好きな言葉は「知(知る)・好(好きになって)・楽(楽しむ)」だそうです。

青少年相談員の活動をする上でも同じことが言えるなと思いました。



編集
後記

連日の猛暑から一気に季節が進み、朝晩冷え込む日が続くようになりましたね。今年度前半のイベントが無事に終了し、久しぶりに保護者の皆さんに観覧してもらえたことができました。現在は交流綱引き大会への準備に奔走中です。子ども達のサポートをしている私たちの方が子ども達からパワーをもらっている交流綱引き大会。今回はどんな感動があるのか、いまからとても楽しみです。



青少相だより



No.66

令和5年11月1日発行

発行 成田市青少年相談員連絡協議会

編集 総務部会

事務局 成田市教育委員会生涯学習課

成田市青少年相談員連絡協議会

60周年事業

Young うなバレー大会

今年度に成田市青少年相談員連絡協議会が60周年をむかえることを記念して、「Youngうなバレー大会」が令和5年5月27日(土)重兵衛スポーツフィールド中台体育館にて開催されました。

市内中学校および義務教育学校から3チーム20名の参加があり、応援に駆けつけてくれた「うなりくん」が見守る中、「うなバレー」初体験の生徒たちの歓声と笑い声がいつまでもアリーナに響き渡っていました。



うなバレーとは、成田市スポーツ推進委員連絡協議会がミニバレーボールをアレンジして考案した競技です。“成田市特別観光大使うなりくん”を描いたビニールボールを使用し、5人で構成されたチームが3～5回でバレーボールのように打ち合います。コートはバドミントンダブルス用のもので、ネットの高さは2メートルです。

ボールは顔に当たっても痛くないビニールボールなので、初心者や、子どもから年配の方でも気軽に楽しむことができます。仲間とボールをつなぎ、助け合いながら相手コートに打ち返すチーム競技であり、仲間との連帯感や一体感を感じながら勝利に向かって協力し合う、楽しく楽しいスポーツです。

「うなバレー大会を開催して」

会長 津守 潤

例年、中学生向け事業として「オールナイトハイク」を7月に開催してきましたが、近年台風接近による悪天候での中止や新型コロナウイルス感染拡大により開催することが出来ず、我々青少年相談員として悔しい想いをしてきました。今年度は事業の時期と事業内容について協議を重ね、成田市青少年相談員60周年という節目の年でもあることから、5月27日に成田市発祥のスポーツである「うなバレー」大会を実施することとなりました。

うなバレーは初心者でも気軽に出来るスポーツであり、友情の輪を広げることに最適で、参加した子

ども達は久しぶりに大きな声を出し、チームを越えて楽しそうにプレーしてくれたことは大変嬉しく感動すら覚えました。

開催に際しまして、成田グリーンライオンズクラブ、株式会社ナリコー、成田市スポーツ推進委員連絡協議会、成田市青少年の輪を育てる会の皆様には多大なるご支援をいただき厚く御礼申し上げます。



優勝 チームみらぼん(大栄みらい学園)

2位 自然界の仲間達(成田中)

3位 WEST EIT(西中)



「Youngうなバレー大会を終えて」

体育Ⅱ部長 飯田 裕一

成田市青少年相談員連絡協議会60周年記念事業として、重兵衛スポーツフィールド中台体育館にて『Young うなバレー大会』を行いました。

主催事業でうなバレーを採用するのは初めてのことで、相談員を対象とした講習会でルールや試合の流れを確認して開催に臨みました。

大会には3チーム20名の参加があり、生徒達はチームで声を掛け合い、他校の生徒とも交流をしながらうなバレーを楽しんでいました。新型コロナウ

イルスの影響で今まで活動を制限されていた子ども達が、うなバレーを通じて笑顔になり、一緒に応援をしていた相談員とも仲良くなった様子が見られたことをとても嬉しく思います。

今大会の開催にあたりご協力いただいた皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。これからも子ども達の笑顔のため活動に邁進してまいりますので、引き続きご支援、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

千葉県青少年相談員60周年記念大会について

副会長 村島 弘和



今年度、千葉県青少年相談員連絡協議会は60周年を迎えました。8月20日(日)千葉市の青葉の森芸術文化ホールにて記念式典が開催されました。当日は千葉県内54市町村の相談員が約400名参加しました。熊谷俊人千葉県知事、宮崎雄一千葉県連会長の挨拶をはじめ、来賓の祝辞、感謝状の贈呈、青少年のアトラクションとして千葉敬愛高校ダンス部のダンスパフォーマンスが行われました。元埼玉県警捜査第1課佐々木成三氏を講師として基調講演も行われました。テーマは「犯罪から子どもを守るために我々大人ができること」として佐々木氏の経験等を元にした講演でした。その後、酒々井町相談員の原実行委員長より60周年記念事業報告、50から60周年の10年間の軌跡として印旛地区、安房地区、君津地区の青少年相談員による事例発表、青少年相談員のあり方検討専門部会高橋座長による提言、早川新座長への引継ぎが行われ無事閉会しました。

それに伴い60周年記念事業実行委員会を中心に折鶴イベントを開催いたしました。本来なら、50周年記念事業のような集合型の事業を計画していました。しかし新型コロナウイルス感染症拡大の中で企画から実行までは困難と判断し、千葉県の子供達に鶴を折ってもらい、青少年相談員が一羽ずつ糸に通し、その

想いをつなげるという趣旨の元、「つなげよう笑顔と心～鶴に想いをのせて～」をスローガンに事業を開催しました。式典当日までに成田市では約4,000羽、千葉県全体では約16万羽の折鶴が集まりました。その後市町村ごとに展示、お披露目等を行いました。千葉県連として約2ヶ月間、千葉県庁をスタートして各地区にて巡回展示を行い、成田市内では成田国際空港、成田イオンモールに展示されました。

最後に成田市青少年相談員の皆様、学校関係者の皆様、子ども達に感謝申し上げます。ありがとうございました。

